

1 教科領域研究テーマ

主権者意識を持ち、よりよい社会や自分の姿を構想する学習展開の工夫

2 研究テーマ設定の理由

これからの社会は未曾有の事象の連続で、VUCA の時代になると考えられている。そのような社会において、「激しく変化する社会に適応していくこと」はもちろん必要だが、それだけでは社会そのものを「よりよく」変革していくことは困難である。そこで求められるのは、「激しい変化に積極的に向き合い、よりよい社会や自分の姿を構想し、その実現のために行動していくこと」である。そして、そのような社会を創り出していく際の資質・能力の鍵となる概念として「エージェンシー」がある。エージェンシーは、「現代社会の諸課題について、自ら考え、主体的に行動して、責任を持って社会変革を実現していく力」と捉えることができ、よりよい社会の実現のために多様な他者と連携、協働して課題解決を目指す上で不可欠なものである。それを身に付け、高めるためには、自分たちが選択・判断、構想したことが、実際の社会を改善したり変革したりすることができるという社会とのつながりを実感する学習を展開することが重要である。現実の社会的事象を扱うことのできる社会科の特性を生かし、自己の意見が社会に発信されたり、社会とつながったりして課題解決に貢献できるという自覚を高める学習を積み重ねていきたい。そうすることで、主権者としての意識を涵養していくとともに、「社会の変革を実現していく力」の育成に資すると考え、本研究テーマを設定した。

3 具体的な研究内容・方法

(1) 社会とのつながりを実感し、主権者意識を高める単元設計の工夫

生徒自らが「よりよい社会を創っていききたい」という意識を持ち、その実現のために行動していくためには、現代社会の諸課題やその解決に向けた取組の実態を知るだけでは不十分である。そこで、課題の背景や解決へのプロセスについて理解し、生徒自身がその方法を活用したり関係者に意見を発信したりして、自己の言動が社会に影響を与えられるという実感を持たせる必要がある。そのために、現代社会の諸課題を積極的に教材化して扱うとともに、AAR サイクルを生かして、生徒自身が課題を見だし、その解決に向けた見通しを持って主体的に学習に取り組める単元を設計していく。

(2) 自己の学びを振り返ることができる評価方法の開発・実践

生徒がエージェンシーを身に付け、様々な場面で発揮するためには、学習を通してどのような学びを得たのかを生徒自身が自覚したり、自己の変容に気付けるよう教師が効果的なフィードバックを行ったりすることが重要である。そこで、OPP シートを改善することや生徒の自己評価を促すための新たな評価方法の開発・実践を通して、生徒の学習改善につながる教科指導と連動した評価による主体的な学びの充実を図っていきたい。

4 校内授業計画

主題（単元）	未定				
学 年	2 年	時 期	7 月？	授業者	萩山（予定）
主題（単元）	未定				
学 年	3 年	時 期	10 月？	授業者	江角（予定）
主題（単元）	未定				
学 年	1 年	時 期	2 月？	授業者	高橋（予定）